

地勢

嘗て役の角仙足跡を著しより、遂に修驗道の行所となれり、今にいたつて聖護三寶兩院の配下、爰に來て修行をなすこと曾て懈ることなし、其島都て三つあり、地島、沖島、神島なり、其形をいは、地島、沖島は鳥の翼を張れる勢をなして、譬へば左右の眉の人の面にあるがごとくしかり、神島は其眉のうへに、黒子を添たらんごと、や、西南のかたに浮出たり、先加太にて舟をやとひ、直に牛が首にいたつて、上る所の者は地島なり、陸にちかきをもて、さは呼べるなるべし、島の周廻やがて二里にも足りなん、青松、蒼蔚として、曾て他の雜樹なし、○中 神島は其周廻三百歩に過ず、○下

〔易林本節用集〕下 紀伊、上 管七郡、南北四日半、三方海、欠平地、五穀不熟、小下國也、

〔紀伊國名所圖會〕和歌山 郡分之事

按ずるに、當國京畿を去ること遠からず、東北は和河泉勢の四國に界を接し、西南は蒼海に濱せり、郡縣都而重嶺を隔て、鳥道を通じ、河水おのゝく分流して海に朝す、山河の險隘、魚鹽の豐饒、まことに天府の國といふべし、

道路

〔和漢三才圖會〕紀伊 和歌山、或爲 弱山、長至 江戶、百四十六里、寅卯 至橋本、十一里半、同至 和州、高取 由、長 海上、五里、新宮 乾、至 和歌山、四里半、長方 至勢州、田丸 九、至 本宮、九里、至 那智

自弱山行攝州大坂道、凡十六里許、但

弱山、有坂、有渡、此間、山口、一里半、有坂、紀州

自弱山行伊勢山田道

弱山、三里、三軒屋、四里、名手、四里、橋本、土里、有、犬、洞、真

自弱山至熊野三山道

海部郡和歌山、至、内、原、一、里、半、在、内、原、二、里、有、藻、層、川、藤、白、崎、此、名、草、郡、加、茂、谷、一、里、二、十、五、町、在、無、坂、海、部、有、田、之